



## 社長年頭挨拶

新年あけましておめでとうございます。2021年の年頭にあたり、一言あいさつ申し上げます。

2020年を振り返りますと、『急変・再編』の年であったのかなと思います。何と云っても、新型コロナウイルスが第一に挙げられるかと思えます。昨年の今頃は中国で発生したニュースが出た程度のレベルでしたが、日本でも3月以降に感染が拡大し、4月には緊急事態宣言が発令されました。7月の第2波、11月以降の第3波を経て、足下でも新規感染者数が最多を連日のように更新するなど予断を許さない状況となっており、経済環境としても大変厳しい状況が続いています。



年頭挨拶の様子

鉄鋼を取り巻く環境としても大きな変革に伴って再編がありました。海外・国内での需要の急減速に伴い、日本製鉄・JFEスチールなどの高炉メーカーでは複数の高炉を休止させる「バンキング」を行うことで生産調整を行う、日鉄日新製鋼を日本製鉄が吸収合併しながら最適生産拠点数へ削減する、また今後の生産構成を考慮する中で新規に電炉の建設計画をするなど、今後の需要に応じて競争力が発揮できるよう再編が行われています。

さて、わが社の事業環境(2020年)を振り返りますと、一昨年から米中貿易摩擦による世界各地における自動車販売台数の減少、消費税増税後の買い控え等の影響が出た後、新型コロナウイルスの影響が3月から出始め、5・6月には前年対比で半減レベルとなりました。ただ幸いなことに7月以降徐々に自動車生産の回復に伴って生産も戻り始め、10月以降は前年同等以上のレベルとなりました(12月速報値: 15,180t 1月見込: 14,255t)。背景としてトヨタ殿の全方位販売攻勢、その他自動車メーカーでも中国・北米地区で自動車販売が好調に推移したことが要因となっています。

しかし、これからの環境を考えますと、先行きは不透明な状況と言わざるを得ないと思います。コロナ感染の推移もワクチンが出来たとはいえ、変異種の発生による影響も懸念されます。又、現状は回復基調の中国でも、政治的不安や個人消費が緩やかである点も見受けられ、決して安心できる状況ではないと思われれます。

かような状況下、2021年はCC21 (Change & Challenge to 2021) の2年目の年として、以下3点の基本方針はそのままに、『より強い会社』となるための挑戦の年にしていきたいと思えます。

### ① モノづくりの競争力向上

原点である【安全に、良いものを、安く】は引き続きしっかりと継続した上で、更に強い宮崎精鋼となる取り組みを実行していきましょう。昨年導入した新規設備が最大限に効果を発揮しているのか精査し、改善すべきところがあればすぐに実行してもらいたいと思えます。昨年からスタートしたOJTソリューションズの取り組みも、手始めは伸線ですが、知多工場全体で、更には全社で共有しながら「宮崎精鋼オリジナルのモノづくり力」へ発展させていきたいと思っています。また、ミヤザキメキシコも1月4日から稼働がスタートしていますが、モノづくり力の支援についてはリモート等を活用しながら、最大限の効果が出る様取り組みをお願いします。

### ② SDGsの実践

持続可能な開発目標ということで、事業を通じて、環境活動のみならず、社会的にも認められる企業を目指してまいります。社員の皆さんが健康に従事していただくことを目的とする健康経営の取り組みや、BCP対策の見直し・災害時のライフライン確保の在り方を見直すことも必要と思えます。

### ③ 皆さんが積極的に主体性を持って行動する

文字の通りではありますが、皆さん一人ひとりが、問題意識を持って自ら積極的に提案し、実行してもらいたいと思えます。

最後になりますが、より強い宮崎精鋼を目指して、皆さんと共に良い一年にしていきたいと思えますので、宜しくお願いします。

